電波新聞　2019年（令和元年）9月26日（木曜日）

田淵電機が住宅用蓄電ハイブリッドシステム

100／200V電化製品に1台で対応

自社ブランドとOEM供給で販売

シェア40％目指す

田淵電機は、自然災害などの停電時に冷蔵庫、照明、テレビなどの100V電化製品と、エアコン、IH調理器などの200V電化製品の両方が使える住宅用蓄電ハイブリッドシステム「EIBS7（アイビスセブン）」を開発し、20年2月から発売する。

災害などによる停電への備え（レジリエンス）、また、19年11月以降、10年間の固定価格買い取り期間が終了する卒FITユーザー向けを中心に、自社ブランド「EneTelus（エネテラス）」の販売と、住宅メーカー、パネルメーカーなどへのOEM供給の両方で販売する。価格は市場で受け入れられる価格設定を目指す。保証は15年。

坂本　執行役員

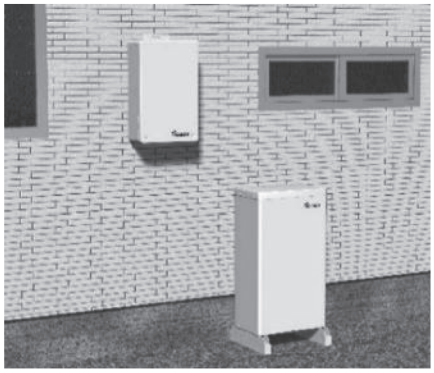
エネルギー・ソリューション事業本部長の坂本幸隆執行役員は「家庭用蓄電システムの19年度国内市場を10万台と見て、今回の新製品を市場投入し、自社ブランドで8千台、パネルメーカー向けを中心にOEM供給で2万4千台の販売を見込んでいる。20年度は国内市場が15万台に拡大すると予想して、自社ブランドで1万5千台、OEM供給がパネルメーカー向け3万5千台、住宅メーカー向け1万台の合計6万台を販売し、40％のシェアを目指す」と意気込む。生産は田淵電子工業（栃木県大田原市）で行う。

パワーコンディショナ㊧と蓄電ユニット

100V、200Vの両方の電化製品を使用できる住宅用蓄電ハイブリッドシステムは業界で初めて。しかも100V、200Vの電化製品の同時使用も業界初で実現した。

これまでパワーコンディショナ、充放電器、蓄電池の3ユニット構造だった住宅用蓄電ハイブリッドシステムを、充放電器を蓄電池ユニットに取り込み一体化したパワーコンディショナと蓄電ユニットの2ユニット構造に仕上げた。

電源切り替えボックスを用いることで、停電が発生した場合でも自動的にパワーコンディショナの自立運転出力を特定のコンセントに限定されることなく、宅内の全ての照明、コンセントに電力供給してフルでバックアップできる。



システムの設置イメージ

パワーコンディショナは、同社従来機でDC80－435Vだった太陽電池入力運転電圧範囲をDC30－450Vに広げ、太陽光発電パネル一枚でも対応できるようにした。太陽光発電システムのパワーコンディショナとしてだけでも使え、狭小屋根の太陽光発電パネルにも対応可能。

定格出力5・5kW（3回路入力）／8・0kW（4回路入力）／9・9kW（5回路入力）の3機種を取りそろえた。外形寸法は445×698×198ミリメートルと3機種同一サイズ。パワーコンディショナの組み合わせによるシステム設計の自由度を高め、設置時のデザインの統一性を図った。自社製高効率リアクトルを採用し、業界最高水準の変換効率96・0％を実現した。

蓄電池ユニットは、リン酸鉄系リチウムイオン電池で定格容量7・04kWh。充放電機能を内蔵し、後付け、増設が可能。蓄電ハイブリッドシステムとして業界最高の14・08kWhの大容量を実現できる。

出力5・5kVA

自律運転の最大出力を業界標準の約2倍の5・5kVAに増やし、冷蔵庫、照明、テレビなどの100V電化製品、さらにはこれまで使用できなかったエアコン、IH調理器などの200V電化製品も使用できる。

坂本執行役員は「ダイヤモンドエレクトリックホールディングスのグループ会社として新たにスタートして初めての新製品だ。停電時でも普段の生活を守るため、大容量蓄電池で宅内の電化製品をフルバックアップする安心の蓄電ハイブリッドシステムとして自信を持って供給していく」と話している。